

漢字を200～300字覚えたら、今度は「かな」を教えましょう。

このときも耳だけで聞かせないで、目でも見せるようにします。目と耳の両方を使って理解させ

ます。まず、すでに知っている漢字、たとえば「白」「青」「赤」などに「雪」「海」「靴」をくっつけて幼児に教えます。

つまり「白い雪」、「青い海」、「赤い靴」という形容詞のついた単語になります。これらの漢字はすでに知っていますから、「い」という字をすぐにわかって覚えられます。幼児は「白い」、「青い」、「赤い」という言葉を使ってはいませんが、これを「白」と「い」というふうに分けて考えるとところまでは理解できていません。

ですから、すでに知っている言葉を結ぶものにこういう字があるんだ、というような感じで「い」という“かな”の発音と、それを表すかな文字を教えていきます。このときに書いたものを一緒に見せてやるようにします。

こうして、二つの言葉をつなぐ文字として、「い」という字があることがわかるようになるのです。これを繰り返すうちに、自然といろいろなひらがなが頭の中に入ってきます。

テーブルに赤い箸が置いてあったとします。「赤」と「箸」という字はわかっていますから、「これは赤い箸だ」ということが理解できるようになります。おのおのの言葉がわかっているならば、自然にそれらを結びつける「い」という文字が出てくるようになるのです。

同じように、「母」という字の上と下に「お」と「さん」をつけることで、「お母さん」というふうに、普段自分が使っている言葉になることを知ります。「おばあちゃん」には「ちゃん」でいいのです。

漢字とまぜて教えているうちに、“かな”は自然に読めるようになります。